

平成31年3月4日

平成31年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 大阪大学
: 次世代人工知能技術の研究開発

研究開発課題 : 課題 I 人間の脳の認知メカニズムに倣った脳型認知分類技術
の研究開発

研究開発期間 : 平成 29 ~ 31 年度

代表研究責任者 : 村田 正幸

■ 総合評価 : 適

(評価点 17 点 / 25 点中)

(総論)

おおむね順当に進んでいると判断する。次年度の成果を期待したい。

(コメント)

- 多くの研究発表を行っている。
- 着実に研究を遂行している。
- 緻密な計画を着実に進め、メンバーの関連研究活動との統合も計画して大きな成果を生み出すように進められている。
- 着実に進んでいると考えられる。また CiNet からの協力も得ながら進めているとのことで、素晴らしい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

ほぼ順当に研究が進展していると判断する。

(コメント)

- 精神疾患診断に向けた眼球運動データの特徴量の定義を完了した。
- バイオロジカルモーション機構の科学的知見の獲得、眼球運動モニタリングによる統合失調症診断分類精度80%などの有力な結果を得ている。
- 着実に進んでいると考えられる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

適切な使用状況である。また、関連機関の設備を活用するなど、工夫を凝らしている。

(コメント)

- 他の組織の設備を使って効率的に推進している。
- 妥当な使用状況と判断する。
- 適正に執行されている。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

平成30年度に平成31年度の成果導出の枠組みを完成させており、性能向上、所要データ量削減、治験などへの着実な進捗が見込める。

(コメント)

- 医療診断支援における実用化の目指す指標を分類精度80%～90%と定めた。
- おおむね順調に進んでいると思うが、次年度に向けてどこに集中するか検討してほしい。
- ア1-2、ウ3-2の統合の道筋を、最終年度とは言わず長期的な視点で示していただきたい。
- 構築したDBの公開・一般利用等を検討していただきたい。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

妥当な予算計画である。

(コメント)

- おおむね妥当であるが、集中すべき点を明確にしてほしい。
- 適切である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

当該分野の実績を有する研究者が参加している。

(コメント)

- 研究者の一部の交代が報告されているが、研究遂行上の問題はない。
- 重点的に配置されており妥当な体制と判断する。
- 妥当と考えられる。特に CiNet との協力体制は資金面も含めて高く評価できる。